

江陵高「福祉」学んだ卒業生4人

仕事に誇り持ち活躍

江陵高校福祉科は当初のコース時代を含め、これまでに176人の卒業生を送り出した。福祉業界を中心に管内外で活躍する人、夢に向かって努力し続ける人…。卒業生の中から4人の近況を紹介する。

専門知識が財産

福祉士目差し勉学
看護師で病院勤務

■酒井愛弓(あゆみ)さん(25) 福祉科1期生 福祉科1期生 姉妹
幕別町札内在住。愛弓さんは福祉施設勤務などを経て、国家資格の「社会福祉士」を目指して勉強中。美穂さんは旭川厚生看護専門学校を3月に卒業し、看護師として帯広市内の病院で働く。10年前に父の病死というつらい経験をした2人は「職種は違つが、命と向き合う点は共通。高校から専門知識を付けられたのは財産」と話す。



夢に向かって勉強中の愛弓さんと看護師として働く美穂さん(左から)

実習の経験生きる

児童保育センター指導員



児童の指導員として奮闘する東納さん

■東納真澄さん(20) 福祉科2期生

幕別町札内在住。江陵高に入ったのは仕事の大げがで車いす生活となつた父の介護のため、障害の知識を学びたかった。「日誌付

拓殖大道短期大保育科を3月に卒業。社会福祉法人慧誠会帯広に入り、西児童保育センターでも生きている」と力を込める。

感謝の言葉励み

福祉施設で介護職員



介護職員として仕事に打ち込む加藤さん

■加藤勇輝さん(26) 福祉科1期生
生まれも育ちも幕別町札内。卒業後、札内寮で介護職員を続け、現在はグループのサブリーダーを務める。

江陵高時代は生徒会長も経験。「在学中は1期生のプレッシャーもあったが、仕事には誇りを持っている。入所者の方からの『ありがとう』の言葉が励み」と笑顔を見せる。